

2024年度第1回院生企画研究会

# 文化遺産と その接続可能性

物質的遺産がつなぐもの、分断するもの

## 地方における オフショアの建築の 機能と影響

本研究会では、Urryの「オフショア化」理論を用いて、日本の地方における製鉄所や工場、発電所などのオフショアの建築物の機能を分析することを目的とする。これらの建築物は交通の便や都市のリスク回避を優先し、地方の生産能力や歴史的な文脈を無視して設置される。ここでは、資本家は自身／富を自由に移動可能な権力者であるが、労働者は自由に移動できず、これらの雇用に依存せざるを得ない。Urryは、モビリティ技術の発達がこの格差を拡大すると示唆している。濱野（2023）は、八幡製鉄所が世界遺産登録を契機に観光資源として翻訳され、様々なアクターを結びつける境界物となったと論じる。しかし、これは「オフショア化」理論に基づけば、製鉄所という本来土地の文脈になかったオフショアの建築物を、世界遺産というオフショアな枠組みを契機に、観光資源というオフショアなモノへ翻訳したと解釈できる。ここで製鉄所は、アクターを結びつける境界物である一方で、地方を脱領土化し再領土化するものとして機能し続けている。本研究会では、他の地方における事例とも比較しながら、オフショアの建築物の機能について理論的に考察する。

- ・ 場所: 関西学院大学 大阪梅田キャンパス1401号室  
(アプロースタワー14階)
- ・ 日時: 2024年11月8日 16:00~17:30
- ・ 参加費: 無料
- ・ 事前申込: 下記のformからお申し込み (11/5 締切)
- ・ 主催: ANTとモビリティの研究会
- ・ 共催: 関西学院大学社会学研究科 大学院生サポートプログラム (GSSP) 事業

11.8日  
16:00-17:30



講師 濱野 健 氏

北九州市立大学 文学部 教授

1978年生まれ。ウェスタンシドニー大学人文学部Ph.D.。専門は移動の社会学・家族社会学など。近著に『観光の公共創造性を求めて—ポストマストツーリズムの地域観光政策を再考する』(上山肇・須藤廣・増淵敏之編) 公人の友社 2023年、『観光が社会をつくる—メディア・身体・リアリティの観光社会学』(須藤廣・遠藤英樹・山口誠・松本健太郎・神田孝治・高岡文章編) 明石書店 2023年、等。



お申し込み <https://forms.gle/xX4qWs3aDPgQv5B7A>